

日本産業衛生学会

## 近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会(事務局)  
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840  
奈良県立医科大学地域健康医学教室内  
専用TEL・FAX.0744-22-1801  
発行責任者・車谷典男(地方会会長)  
<http://jsohkink.umin.jp>

## 第52回近畿産業衛生学会 (第3報)

	主催	日本産業衛生学会 近畿地方会
	後援	和歌山県医師会、和歌山県歯科医師会、和歌山市医師会、 日本労働安全衛生コンサルタント会和歌山支部、 和歌山産業保健推進連絡事務所
	学会長	森岡郁晴(和歌山県立医科大学)
日	時	平成24年11月17日(土) 10時開始
会	場	和歌山県立医科大学保健看護学部(和歌山市三葛580)
一	般	10:00~12:00 第1会場(大講義室) 第2会場(第5講義室) 第3会場(第6講義室)
	演	題
幹	事	12:10~13:00 3階大会議室
會	會	12:00~13:00 第1会場(大講義室)
昼	食	座長 岩根幹能(和歌山健康センター)
セ	ミ	演者 初山昌平(和歌山県労働安全衛生コンサルタント会)
ミ	ナ	「ほんとは怖い!歯周病!~糖尿病等との関連について~」
ナ	ー	
		第2会場(第5講義室)
代	議	13:10~13:40 第1会場(大講義室)
議	員	13:45~13:55 第1会場(大講義室)
會	表	14:00~17:00 第1会場(大講義室)
表	彰	「東日本大震災から考える産業保健における健康危機管理」
式	式	座長 森岡郁晴(和歌山県立医科大学)
シ	ン	長澤孝子(積水化学工業滋賀栗東工場)
ン	ポ	基調講演 坂田清美(岩手医科大学医学部)
ジ	ウ	シンポジウム 豊川彰博(大阪ガス健康開発センター)
ウ	ム	河合篤子(神戸製鋼所健康保険組合)
		宮本俊明(新日鐵住金君津製鐵所)
		特別報告 「洪水被害から考える産業保健」
		オラワン・ゲオープンチュウ(タイ王国マヒドン大学)
		チャナダ・ナブカソン(タイ王国プラパ大学)
懇	親	17:30~19:00(ロイヤルバインズホテル)
會	會	専用ページ開設 <a href="http://jsohkink.umin.jp/jsohkink-52/">http://jsohkink.umin.jp/jsohkink-52/</a>

## 学会開催のご挨拶

森岡 郁晴

(和歌山県立医科大学保健看護学部)

第52回近畿産業衛生学会を、和歌山県立医科大学保健看護学部で開催させていただきます。会場は紀三井寺駅から北へ徒歩約10分の距離と、比較的便利なところにあります。

今回は午前中に一般演題29題の発表があります。会員の貴重な研究成果の発表です。この中から、近畿産業衛生学会優秀演題賞と第52回近畿産業衛生学会若手奨励賞が決まりますので、ご期待ください。

これまで幹事会、代議員会の間はいわゆる昼食休憩になっていました。しかし、会場周辺には食事をする施設がありませんので、昼食に紀州味めぐりのお弁当を用意させていただきました。また、その時間が一般会員の皆さんの有効な時間となるように、昼食セミナーを設けました。お弁当を取りながら、歯科保健の講

演をお聞きください。

午後のシンポジウムには、「東日本大震災から考える産業保健における健康危機管理」を主題とし、東海地方から九州までの広い範囲で甚大な被害が想定されている東海・東南海・南海地震などの災害時等の産業保健における健康危機管理の問題を認識し、参加者と一緒にあって対応を探っていきたいと考えています。

懇親会では、マグロの解体ショーを行いますので、マグロの美味しさと感動を味わっていただき、翌日からの活力となるように願っています。ぜひご参加ください。

では、会員の皆様、お誘いあわせの上お越しいただけますよう、事務局一同願っております。

## 第52回近畿産業衛生学会プログラム

### 一般演題 10:00~12:00

#### 第1会場<大講義室>

##### 10:00~10:36 第1セッション

#### 座長 埜田和史 (滋賀医科大学衛生学)

(101) 振動工具取扱作業における振動感覚閾値と体格指標の関連

○竹村重輝、福元仁、吉益光一、宮下和久 (和歌山県立医科大学医学部衛生学教室)

(102) 梅干し洗浄作業が循環機能に及ぼす影響

○宇田賀津<sup>1)2)</sup>、宮井信行<sup>2)</sup>、森岡郁晴<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>摂南大学看護学部

<sup>2)</sup>和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科

(103) 肥満と喫煙は相乗的に耐糖能低下をもたらす

○岩根幹能<sup>1)2)</sup>、前田真也<sup>1)</sup>、村上朋絵<sup>2)</sup>、東文香<sup>1)</sup>、山名愛<sup>1)</sup>、椴木麻那美<sup>1)2)</sup>、向井香那恵<sup>1)</sup>、渡邊実香<sup>1)</sup>、榎本祥太郎<sup>1)</sup>、木下藤寿<sup>1)</sup>、麦谷耕一<sup>1)</sup>、中村信男<sup>1)</sup>、高野登<sup>1)</sup>、茂原治<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>和歌山健康センター

<sup>2)</sup>新日鐵住金尼崎診療所

##### 10:36~11:12 第2セッション

#### 座長 中山健夫 (京都大学大学院医学研究科)

(104) 動脈硬化のリスク因子の解析

○桂田ちづる、小山康弘、森野薫、山道直樹、寺田哲也、富一弘、磯島康史、西村明芳、金沢裕一、木村隆 (近畿健康管理センター滋賀事業部)

(105) 製造業における喫煙者の禁煙意識別に捉えた虚血性心疾患リスクと禁煙状況についての調査

○山名愛、麦谷耕一、東文香、椴木麻那美、向井香那恵、前田真也、岩根幹能、茂原治 (和歌山健康センター)

(106) 警察官における職業性ストレスの実態および心血管危険因子との関連

○塩崎万起<sup>1)2)</sup>、宮井信行<sup>3)</sup>、吉益光一<sup>2)</sup>、森岡郁晴<sup>3)</sup>、内海みよ子<sup>3)</sup>、小池廣昭<sup>4)</sup>、有田幹雄<sup>3)</sup>、武田真太郎<sup>1)</sup>、宮下和久<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>和歌山県立医科大学医学部衛生学教室

<sup>2)</sup>和歌山県警察本部厚生課

<sup>3)</sup>和歌山県立医科大学保健看護学部

<sup>4)</sup>小池クリニック

##### 11:12~11:48 第3セッション

#### 座長 鈴木純子 (日本アイ・ビー・エム)

(107) 若年層における食習慣と健康診断結果の検討 - 標準的な質問票を用いて -

○川嶋由貴、西村梢、三原安律子、嵯峨裕子、寺田哲也、富一弘、磯島康史、阪上皖庸、木村隆 (近畿健康管理センター医療総括本部)

(108) 職場対抗ウォーキングへの参加による定期健康診断データの変化

○西川幸位<sup>1)</sup>、前川義隆<sup>1)</sup>、上坂聖美<sup>1)</sup>、伊藤裕康<sup>1)</sup>、森岡郁晴<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>三菱樹脂株式会社社長浜工場

<sup>2)</sup>和歌山県立医科大学保健看護学部

(109) 健康診断結果から見た労働者の睡眠と生活習慣の解析

○阿部志津香、寺田哲也、嵯峨裕子、富一弘、谷口俊樹、磯島康史、阪上皖庸、藤田正憲、木村隆 (近畿健康管理センター)

#### 第2会場<第5講義室>

##### 10:00~10:48 第1セッション

#### 座長 富岡公子 (奈良県立医科大学地域健康医学)

(201) 製造業における特定保健指導継続支援の成果

○東文香、麦谷幸一、山名愛、椴木麻那美、向井香那恵、前田真也、岩根幹能、木下藤寿、茂原治 (和歌山健康センター)

(202) 産業保健師のWFCに対する認識と所属職場の特性との関係についての分析

○久井志保 (兵庫大学健康科学部)

(203) 女性社員支援体制の取り組みについて - 管理監督者のニーズ調査を実施して -

○宇都宮理恵<sup>1)</sup>、佐藤末美<sup>1)</sup>、原田京子<sup>1)</sup>、柳本裕子<sup>1)</sup>、上原新一郎<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>JR西日本健康増進センター

<sup>2)</sup>大阪市立大学大学院医学研究科

(204) 入社時と入社10年時の健康教育における口腔保健活動

○吉田俊香、川北智識、沖井泉穂、内田幸子、麦谷耕一、向井香那恵、山之上水須、東文香、山名愛、岩根幹能、前田真也、茂原治 (和歌山健康センター)

## 10:48 ~ 11:24 第2セッション

座長 久井志保 (兵庫大学健康科学部看護学科)

(205) 製造業における数年間の健康管理活動について

○向井香那恵、麦谷耕一、東文香、山名愛、榎木麻那美、川北智識、吉田俊香、沖井泉穂、内田幸子、前田真也、岩根幹能、木下藤寿、茂原治 (和歌山健康センター)

(206) 産業保健に関わる保健師・看護師の活動状況調査 (第1報)

○照屋直美、堤梨恵、大脇多美代、中島美絵子、松本泉美、松田裕子、鮫島真理子、長澤孝子、鈴木純子、米山貴子、雑賀佳世子、玉木登志枝、中井栄、中村千賀、原田昌子、久井志保、平田真以子、藤吉奈央子、益江淑子、村田理絵、吉田広子、(近畿産業看護部会幹事)

(207) 産業保健に関わる保健師・看護師の活動状況調査 (第2報)

○堤梨恵、大脇多美代、中島美絵子、松本泉美、照屋直美、松田裕子、鮫島真理子、長澤孝子、鈴木純子、米山貴子、雑賀佳世子、玉木登志枝、中井栄、中村千賀、原田昌子、久井志保、平田真以子、藤吉奈央子、益江淑子、村田理絵、吉田広子、(近畿産業看護部会幹事)

## 11:24 ~ 12:00 第3セッション

座長 中西一郎 (東レ株式会社滋賀事業場)

(208) 係長職にある保健師の心理的・身体的ストレス反応に関連する要因

○尾崎裕美<sup>1)</sup>、山田和子<sup>2)</sup>、森岡郁晴<sup>2)</sup><sup>1)</sup>和歌山県精神保健福祉センター<sup>2)</sup>和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科

(209) 検査時間ならびに待ち時間の調査-待ち時間短縮への取り組み-

○岡田明人、森川弥生、細見聡 (京都工場保健会)

(210) 保育士が化学物質過剰症・シックハウス症候群に発症したとして訴えた事件

○圓藤吟史 (大阪市立大学大学院医学研究科産業医学分野)

## 第3会場&lt;第6講義室&gt;

10:00 ~ 10:36 第1セッション

座長 竹下達也 (和歌山県立医科大学医学部)

(301) 可塑剤・難熱剤の曝露評価手法の開発と小児アレルギー・リスク評価への応用-尿中2-エチル-1-ヘキサノールの分析方法と測定事例-

○河合俊夫<sup>1)</sup>、坪井樹<sup>1)</sup>、荒木敦子<sup>2)</sup>、アイツバマイゆふ<sup>3)</sup>、岸玲子<sup>2)</sup><sup>1)</sup>大阪労働衛生総合センター<sup>2)</sup>北海道大学環境健康科学研究教育センター<sup>3)</sup>北海道大学大学院医学研究科予防医学講座公衆衛生学分野

(302) 生物学的モニタリングのためのGC-MSによる尿中ヒ素化合物の分析法の開発

○竹内靖人<sup>1)</sup>、奈女良昭<sup>2)</sup>、川澄八重子<sup>3)</sup>、今中努志<sup>4)</sup>、佐久井徳広<sup>5)</sup>、太田裕一<sup>1)</sup>、圓藤陽子<sup>6)</sup>、住野公昭<sup>1)</sup>、圓藤吟史<sup>7)</sup><sup>1)</sup>大阪労働衛生総合センター<sup>2)</sup>広島大学大学院医歯薬保健学研究院法医学<sup>3)</sup>労働衛生調査分析センター<sup>4)</sup>ジーエルサイエンス株式会社<sup>5)</sup>アジレント・テクノロジー株式会社<sup>6)</sup>関西労災病院中毒研究センター<sup>7)</sup>大阪市立大学大学院医学研究科産業医学分野

(303) 有機溶剤蒸気直接法に用いる新捕集袋の検討

○金丸愛、福井良成、長澤康浩、川上卓也、大橋史子、池田正之 (京都工場保健会)

## 10:36 ~ 11:12 第2セッション

座長 伊木雅之 (近畿大学医学部公衆衛生学)

(304) ICP発光分光分析法を用いた生体試料におけるルビジウム濃度の測定について

○藤田愛子、臼田寛、清水宏泰、藤本圭一、河野令、喜多村泰博、大西圭以子、河野公一

(大阪医科大学医学部衛生学公衆衛生学教室 I・II)

(305) 大気中短鎖塩素化パラフィンの排出源の推定

○新添多聞<sup>1)</sup>、小泉昭夫<sup>1)</sup>、原田浩二<sup>1)</sup>、人見敏明<sup>1)</sup>、劉万洋<sup>1)</sup>、巖俊霞<sup>1)</sup>、藤井由希子<sup>1)</sup>、石川裕彦<sup>2)</sup><sup>1)</sup>京都大学大学院医学研究科環境衛生学<sup>2)</sup>京都大学防災研究所気象・水象災害

(306) 芳香族アミン曝露作業者の発癌リスクに関する歴史的コホート研究

○富岡公子、岡本希、佐伯圭吾、大村賢史、車谷典男 (奈良県立医科大学地域健康医学教室)

11:12 ~ 12:00 第3セッション

座長 西尾久英 (神戸大学大学院医学研究科)

(307) コールセンターでの騒音曝露実態調査の試み  
○前田節雄<sup>1)</sup>、渡久山朝裕<sup>2)</sup>、小林甲児<sup>3)</sup>、中谷任徳<sup>4)</sup>、  
中谷明子<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup>近畿大学総合社会学部

<sup>2)</sup>沖縄県立看護大学

<sup>3)</sup>豊田通商

<sup>4)</sup>ゴールデンダンス

(308) 手腕振動測定装置の国内外の動向

○前田節雄<sup>1)</sup>、宮下和久<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>近畿大学総合社会学部

<sup>2)</sup>和歌山県立医科大学医学部衛生学教室

(309) 電子メールを利用した日振動ばく露A(8)の計算システム

○吉岡淳<sup>1)</sup>、宮下和久<sup>1)</sup>、前田節雄<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>和歌山県立医科大学医学部衛生学教室

<sup>2)</sup>近畿大学総合社会学部

(310) 手腕振動障害症状の有無で分けた手指の実計測データの比較の検証

○福元仁、竹村重輝、吉益光一、宮下和久 (和歌山県立医科大学医学部衛生学教室)

幹事会 3階大会議室 12:10~13:00

昼食セミナー 第1会場(大講義室) 12:00~13:00

座長 岩根幹能 (和歌山健康センター)

演者 初山昌平 (和歌山県労働安全衛生コンサルタント会)

「ほんとは怖い歯周病! ~糖尿病等との関連について~」

代議員会 第2会場(第5講義室) 13:10~13:40

表彰式 第1会場(大講義室) 13:45~13:55

近畿産業衛生学会優秀演題賞  
第52回近畿産業衛生学会若手奨励賞

シンポジウム 第1会場(大講義室) 14:00~17:00

「東日本大震災から考える産業保健における健康危機管理」

座長 森岡郁晴 (和歌山県立医科大学保健看護学部)  
長澤孝子 (積水化学工業滋賀栗東工場)

基調講演

「東日本大震災被災者の健康課題」

坂田清美 (岩手医科大学医学部)

シンポジウム

「大規模災害における従業員の健康管理」

豊川彰博 (大阪ガス健康開発センター)

「阪神大震災での産業保健活動を通して」

河合篤子 (神戸製鋼所健康保険組合)

「同一企業内で被災した他事業場への産業保健支援活動」

宮本俊明 (新日鐵住金君津製鐵所)

特別報告

「洪水被害から考える産業保健」

オラワン・ゲオブンチュウ (タイ王国マヒドン大学)

チャナダ・ナブカソン (タイ王国ブラパ大学)

懇親会 ロイヤルパインズホテル 17:30~19:00



## 第52回近畿産業衛生学会開催要項

### 1. 参加申込

事前申込をされていない方でも参加できます。ご参加をお待ちしています。

### 2. 会場へのアクセス

会場 和歌山県立医科大学保健看護学部



JR紀三井寺駅下車 徒歩約10分

阪和自動車道 和歌山インターより 車約20分

JR和歌山駅より和歌山バス三葛停留所下車 徒歩約10分

### 電車時刻表

#### JR<往路>

大阪駅 → 天王寺駅 → 和歌山駅		(乗換)		紀三井寺駅	
(阪和線、紀州路快速)				(紀勢線)	
①番ホーム	⑮番ホーム	⑤番ホーム			
7:30発	7:49発	8:58着	9:15発	9:22着	
7:55発	8:13発	9:22着			
8:05発	8:27発	9:42着	9:45発	9:51着	

#### 南海本線<往路>

難波 → 和歌山市 (JRへ乗換)		JR和歌山駅	
7:45	8:42	8:47	8:53

#### JR<復路>

紀三井寺駅 → 和歌山駅		(乗換)		天王寺駅 → 大阪駅	
(紀勢線)				(阪和線、紀州路快速)	
17:28発	17:35着	17:41発	18:58着		
		17:50発	19:09着	19:32着	
		18:06発	19:18着		
		18:10発	19:28着	19:47着	
18:04発	18:11着	18:28発	19:39着	20:00着	
		19:28発	20:39着	20:58着	
		19:39発	20:48着		
		19:51発	21:02着	21:19着	
		20:12発	21:16着		

### 3. 受付・参加費

受付は、和歌山県立医科大学保健看護学部 管理校舎棟学生ホールロビー前で、当日9時半から始まります。

参加費は、日本産業衛生学会の学会員1,000円、非会員2,000円、大学院生・学生1,000円です。

### 4. 一般演題の演者の方へ

- 1 演題につき11分(口演7分+質疑応答4分)です。会場内に次演者席を用意しています。
- 2 発表用ファイル(Windows版 Power Point 2003/2007/2010)は、当日発表会場前のPC受付で受け付けます。発表セッションの30分前までにお越しください。

### 5. 昼食

本学部の周辺には食事をする施設はありませんので、お弁当(紀州味めぐり弁当:1,000円)を用意させていただきました。ご希望の方は、事前申込をお願いします。

昼食セミナーにも是非ご参加ください。

### 6. 幹事会および代議員会

幹事会は12時10分から3階大会議室で、代議員会は13時10分から第2会場(第5講義室)で行ないます。

### 7. 表彰式

一般演題の中から優秀な研究発表に近畿産業衛生学会優秀演題賞が原則として1題が選考され、表彰されます。

さらに、本年次学会では、若手研究者を対象に第52回近畿産業衛生学会若手奨励賞が選考され、合わせて表彰されます。

### 8. 懇親会

17時30分よりロイヤルパインズホテルにて懇親会を開催します。会場より無料マイクロバスが出ます。参加費は4,000円です。事前申込をお願いします。マグロの解体ショーを予定していますので、是非ご参加ください。

### 9. 認定産業医の方へ

シンポジウムに関しては、日本医師会認定産業医制度生涯研修(専門)を申請中です。ご希望の方は、当日受付してください。

### 10. 産業看護職の方へ

シンポジウムに関しては、日本産業衛生学会産業看護職継続教育(実力アップコース)の単位を取得済です。ご希望の方は、当日受付してください。

### 11. 学会事務局

第52回近畿産業衛生学会事務局

〒641-0011 和歌山市三葛580 和歌山県立医科大学保健看護学部 森岡郁晴、宮井信行

TEL: 073-446-6700, FAX: 073-446-6720

Eメール: 52ksanei@wakayama-med.ac.jp

専用ページ <http://jsokink.umin.jp/jsokink-52/>

## 第17回近畿産業医部会研修会を終えて

実行委員長

豊川 彰 博



平成24年9月8日、大阪市立大学医学部学舎にて「メンタルヘルス対策 ～新たな試み～」をメインテーマに第17回 近畿産業医部会研修会を開催しました（参加者141名）。産業医部会長の山田誠二先生から挨拶をいただいた後、大阪ガス（株）人事部大阪ガスグループ健康開発センター 岡田邦夫先生から、「健康診断におけるストレスチェック」というテーマで基調講演を頂戴しました。「医師または保健師による精神的健康状況を把握するための検査を行わなければならないものとする」という労働安全衛生法の改正は、今国会では成立しませんでした。導入に至った経緯や厚生労働省の考えなど、幅広い情報を掘り下げてお話しいただきました。

シンポジウムでは「産業現場におけるストレスチェックの実際 ～現状と課題～」として、三菱電機（株）伊丹製作所総務部健康増進センター 萩原聡先生と筆者で座長を務め一般財団法人京都工場保健会 森口次郎先生からは、労働衛生機関として既に取り組んでいるストレス調査の実際を、ナンバカギもとメンタルクリニック 鍵本伸明先生からは、嘱託精神科医として関わっていらっしゃる企業での事例や精神科主治医の立場から、課題などをお話しいただきました。大阪市人事室 人事厚生グループ 出雲谷恭子先生には、平成23年度大阪府で実施したストレス調査の実際と問題点をお話しいただきました。全体討議では、既に多くの企業でストレスチェックを導入されていることが示され、導入の目的を明確にすること、個人だけでなく仕事を含む環境への対応が必要なこと、受け皿となる事後措置のシステムが大切であることなどが確認できました。

最後に、研修会の準備・運営にご支援・ご協力いただいた関係者の皆様に深謝申し上げます。

平成24年度産業看護部会  
第1回定例研修会 報告

産業保健専門職としてのリスクコントロール  
～2011年産業医敗訴事件から学ぶ保健師・看護師の法的職務と責任～

西日本旅客鉄道株式会社  
健康増進センター  
保健師

大石 美保子



平成24年7月21日に開催された近畿地方会産業看護部会定例研修会に参加させていただき、三芝丈典先生のご講演を拝聴いたしました。2011年産業医敗訴事件

は、自律神経失調症と診断されていた社員に対して、産業医が面談した際に、安易な激励、圧迫的な言動、患者を突き放して自助努力を促すような言動をし、産業医の注意義務に違反したとされた事件です。

この判例から学んだことは、「精神科専門医」でなくとも「産業医」として常識的な対応が求められること、また、産業医の専門性については、産業医の学科研修・実習にもメンタルヘルスの科目が掲げられていることからわかるように、メンタルヘルスについての一通りの医学的知識を持っていることが期待される、ということでした。

私たち看護職も、保健師助産師看護師法によって定められた国家資格を持つ専門職であり、産業保健スタッフとして同等の役割が求められ、責任も生じます。判決の示すように、専門職として一定のレベルの医学的知識を持っていることも当然期待されます。

今回のご講演は、今一度自分たちのリスクコントロールについて学ぶよい機会となりました。また、講演の最後にはたくさんの質問に答えていただき、看護職として感じる日ごろの不安を解消することもできました。特に印象に残っていることは「手続きを尽くす」ということです。各種社内規則の整備、重要な事項には5W1Hを含めた記録を残すことなどは、保健師・看護師としての法的職務と責任を果たす上でとても大切だと再認識いたしました。

第12回近畿臨床産業医学フォーラムを  
開催して

当番世話人（医）起生会

岡田 章



本学会近畿地方会の研究会である近畿臨床産業医学フォーラムを平成24年9月5日 午後6時より ホテルモントレ大阪7F「パルフィ」で参加者約90名を得て開催した。

労働者の内、女性の割合は約43%に達し、かつ生産年齢の女性の内約63%が就労している最近の実情に鑑み、今回は「女性の健康管理」をテーマとした。「女性の検診の実態と問題点」京都工場保健会 副会長 武田和夫先生、「女性従業員の健康管理」株式会社ワールド 人事統括部 保健師 雑賀佳世子先生、「子宮頸癌一企業検診に望むこと」大阪府立成人病センター 婦人科主任部長 上浦祥司先生、「乳癌一企業検診に望むこと」大阪労災病院 乳腺外科部長 松並展輝先生の4名の方々から、それぞれ日頃のご経験を踏まえ、事例報告を加えた詳細かつ示唆に富んだご講演を聞き、パネルディスカッションでも活発な意見交換ができ、有意義な一時を持った。今回は各講演のスライド内容が資料集として参加者に配布され、後日に活用し得るよう配慮がなされた。偏に各講師並びに共催して戴いたグラクソ・スミスクライン株式会社のご協力とご尽力の賜物と厚く御礼を申し上げます。

又、会場の皆様にはお忙しい中ご出席戴き、熱心にご聴講下さり、貴重なご意見も戴き深く感謝申し上げますと共に、次回も又、お元気なお顔をお見せ下さいますようお願い申し上げます。

## 産業看護部会からのお知らせ

### I、近畿産業看護部会新体制のお知らせ

幹事の交代により、9月から新体制になりましたのでご紹介します。

会員の皆様と一緒に、より良い活動を目指していききたいと思っております。今後とも、ご協力、ご支援よろしくお願いたします。

理事	大脇多美代	大阪産業保健推進センター
部会長	鮫島真理子	大阪産業保健推進センター
副部会長	長澤 孝子	積水化学(株)工業滋賀栗東工場
副部会長	鈴木 純子	日本・アイビー・エム(株)
会計・ 広報	原田 昌子	パナソニック(株)デバイス社半 導体事業グループ長岡
研 修	平田真以子	みずほフィナンシャルグル ープ大阪健康開発センター
	久井 志保	兵庫大学健康科学部看護学科
	吉田 廣子	太成学院大学看護学部
	玉木登志枝*	ダイハツ工業オフィスサポ ートセンター
	中井 栄*	パナソニック健康開発セン ター
	益江 淑子*	北大阪地域産業保健センター
	村田 理絵*	京都工場保健会
研 究	松本 泉美	畿央大学健康科学部
	中島美繪子	千里金蘭大学看護学部
	堤 梨恵	三井化学(株)大阪工場
	中村 千賀*	キヤノンマーケティングジャ パン(株)
	米山 貴子	大阪労災病院勤務者予防医療 センター
	照屋 直美*	大阪府総務部
	雑賀佳世子*	(株)ワールド
監 事	藤吉奈央子	近畿労働金庫健康管理セン ター
	松田 裕子	

\*新任幹事

### II、H23年度研究調査事業報告について

会員の皆様、「産業保健に関わる保健師・看護師の活動状況調査」にご協力いただきありがとうございます。調査報告書が完成いたしましたのでご報告いたします。

本年度、第52回近畿産業衛生学会で皆様にご報告を予定しています。また、すでに近畿地方会ホームページに掲載しておりますので、ご一読ください。

近畿地方会HP 地方会活動報告：<http://isohkink.umin.jp/report.html>

## 技術部会からのお知らせ

平成24年度も、総会と講演会や研究会を計画しています。ご意見、要望をお待ちしています。

- 1) 技術部会の会員になろうと思われる方
- 2) 秘術部会の研究会への意見のある方
- 3) 技術部会と共同(コラボ)研究会を実施して見ようと思われる各研究会の担当者
- 4) その他 技術部会への要望

などの御意見がありましたら下記にご連絡下さい。

世話役 河合 俊夫

[Tkawai@jisha.or.jp](mailto:Tkawai@jisha.or.jp)





## 私たちの職場 (24)

## 奈良県庁

産業医 大原 賢了

平成23年度の全国公務員数は、国家公務員が64.1万人（一般職34.1万人）、地方公務員が278.9万人（学校、警察等を除く一般行政92.6万人）であり、年々定数削減により減少していますが、全国就業者6,300万人の約5%に相当する一大労働者集団ということが出来ます。

公務員職場でも健康管理が重要なことは言うまでもなく、国家公務員は人事院規則により、また、地方公務員では労働安全衛生法に則り、健康管理が行われています。都道府県や市町村では、民間企業と同様、職員健康管理部門（室、係、担当者など、規模は様々）を設置し、専門職である保健師（又は看護師）が専任又は兼任で従事されています。

奈良県庁では、健康管理の対象となる職員は、出先機関・非常勤職員を含め約5,000人。学校や警察職員は、教育委員会や県警の担当となり、対象外です。体制としては、県庁の総務厚生センター健康管理係の保健師5名、事務職2名が専従職員であり、県庁や常時50人以上の職員が勤務する出先機関に安全衛生委員会、産業医、衛生管理者等を、そして、県庁各課や全ての出先機関に安全衛生推進者を設置しています。常勤産業医は、私を含めて5名（県立3病院を除く。）ですが、いずれも専従ではなく、保健所長など行政職との兼務となっています。

職員の健康管理に関しては、メンタルヘルス対策やメタボリックシンドローム対策に努力していますが、先進的な企業の取り組み状況を聞くと、まだまだ課題は多く、発展途上の領域と言えます。ここでは、最近の県の取り組みについて、紹介したいと思います。

## (1) 公務員の仕事と健康

公務員は昔から9時5時などと言われ、民間に比べ勤務時間は短く、健康状態も良いと思われがちです。しかし、実際は、職員数が減少する中、仕事は増加・複雑化し、定時に退庁できる職員は少なく、メンタルヘルス不調者への対策が課題となっています。

東日本大震災の発生により、国民の自然災害への関心が高まっていますが、突発的な自然災害や健康危機事例への対応は、公務員の大きな仕事となります。本県でも、昨年9月の紀伊半島大水害、また、昨年2月の鳥インフルエンザ発生時の感染鳥の処分では、担当部局以外からも多くの職員が動員され、長時間勤務などにより精神的ストレスを感じた職員が発生しました。産業医による面接指導や専門カウンセラーによる相談などで対応しましたが、職員自身の申し出に基づき実施されているため、利用者が少ないことが課題です。

このため、健康管理係では、庁内メールを用いて、定期的に健康づくりや生活習慣病の情報を発信することにより、職員が健康に関心を持ち、制度を気軽に利用してもらえる環境づくりに努めています。

## (2) 健康診断

職員は年1回の定期健康診断（定期健診）の受診が義務づけられていますが、共済組合が実施する人間ドックの受診でも構いません。定期健診又は人間ドックの受診率は、健康管理係からの受診勧奨の効果もあり、概ね100%となっています。

一方、課題もあります。県では、毎年複数の健診機関から健診結果データの報告を受けていますが、それらデータを統合したデータベースの整備・作成がなされていないため、個人ごとの経年評価ができない状況にあります。このため、個人の保健指導を行うに当たって、大変な不便を強いられるのですが、スタッフの人力で何とかカバーしている状況です。

また、健診で異常が判明しても、自覚症状が無いため、どうしても治療に行かない職員の問題があります。県ではこれまで、定期健診などで要医療や要精密検査と判定された職員は、本人からその後の治療状況の報告を求め、必要に応じて保健指導を実施していましたが、それでも治療を行わない職員が残ることが課題でした。このため、今年度からシステムを変更し、血圧やヘモグロビンA1c等が特に高い人など、治療の必要性の高い人に対し徹底して働きかけを行うこととし、職場の上司の協力を得て、個人のプライバシーにも配慮した、医療機関への治療勧奨を行うシステムを開始したところです。

このように、まだまだ課題の多い職場ですが、今後とも、スタッフ一同、健康的な職場環境づくりのため、精一杯の努力を続けていきたいと考えています。産業衛生学会におかれても、現場に役立つ数多くの情報を、引き続きご提供いただきますようお願い申し上げます。



奈良県庁全景



「せんとかん」と健康管理スタッフ

## 会員の声



### 和歌山県立医大衛生学教室 のご紹介

和歌山県立医大衛生学教室  
助教 福元 仁

和歌山県立医科大学は1945年、和歌山市中心部に県立医学専門学校として開校しました。1998年に現住所である和歌山市紀三井寺に移転。衛生学教室は大学研究棟の9階にあり、東は年中緑に覆われた若草山と地名の由来となった紀三井寺を、西には万葉集にも詠まれた片男波や和歌浦湾が見えます。さらに天気の良い日は、淡路島や四国まで見渡すことができ、窓から夕日を眺める時は最高に贅沢な気分です。海風が吹くため、しのぎやすい利点がある一方、海に近すぎる立地は津波対策上問題ありと新たな対策を迫られています。ただし、医大以外に周囲に高い建築物はなく、自宅に居て津波警報が発令された場合、真っ先に医大の教室へ避難しようと個人的に考えています。

衛生学教室のスタッフは、宮下和久教授、吉益光一准教授、また福元仁と竹村重輝の2名の助教で構成されています。教室の主な専攻分野としては、産業保健、

学校保健、地域保健、精神保健と4つあります。(1) 産業保健は本教室の根幹をなすものであり、とりわけ手腕振動障害については、和歌山県下の林業従事者を対象にした30余年分の特殊健診データが蓄積されており、振動曝露を有する特定の職業集団を追跡したデータとして大変貴重なものです。また近年、熱帯地域における振動障害について、マレーシア・マラヤ大学と共同で実地研究を実施しています。(2) 学校保健は武田眞太郎名誉教授が力を入れられた分野です。現在は本学保健学部森岡郁晴教授と宮井信行准教授を中心に実施し、当教室が研究協力を行っています。(3) 地域保健は、紀南のみなべ町で名産の梅と健康の関連について、宮下教授と竹村助教が中心となって住民を対象にした疫学調査を実施しています。(4) 精神保健は、精神科医である吉益准教授が小児のADHDや地域の精神保健について研究を行い、また産業保健分野でも産業医の立場で積極的な活動をされています。

教室員と同門会会員の結びつきも強く、学会先で実施される「ご当地飲み会」など、懇親を深める機会も多くあります。来る11月17日に実施される第52回近畿産業衛生学会で、皆様をこの和歌山の地でお待ちしております。



### シックハウス診療科にて 技術部会に期待する

関西労災病院環境医学研究センター  
平田 衛

私は、2009年3月に労働安全衛生総合研究所を定年退職した後、関西に帰って現職に就きました。シックハウス症候群（以下SHSと略）の患者を診療する政策医療とその研究が仕事です。職場の化学物質による健康影響、特に神経系に関する勉強をして来た関係上、SHSはホルムアルデヒド（FA）や有機溶剤による症状なので違和感はないのですが、病院で得られる情報は患者の言い分だけなので診断には注意が必要です。

大阪府立公衛研在職中、職場で有機溶剤などによる身体不調を訴える人が相談に来た場合、現場観察と環境測定が診断には必須でした。例えば、ある工場では夏に冷房を入れると集団で眼が痛くなる事例では、職場観察で多数のベニヤ板からFAを疑い、同僚が環境測

定をして確定しました。

しかし、受診者が使用化学物質の資料を持参しても曝露レベルは判りませんから、環境測定が必要です。患者が既に測定機関に依頼した場合は、データの持参をお願いします。そうでない場合、患者に自宅のFAと有機溶剤のサンプリングをして貰い、中災防・大阪労働衛生総合センターに測定をお願いしています。

化学物質の作業環境は、1975年に作業環境測定法が制定時に比べ総体としては大きく改善されました。しかし、中大規模事業所の一隅や小企業での作業が見過ごされ、最近の胆管癌の事例のように一部に高濃度作業があると考えられます。

2010年4月から当院に産業中毒センターが併設され、圓藤陽子さんの着任後には職場の化学物質で健康を害したという患者も来診されます。その場合も、診断には環境測定データなど化学物質への曝露の確証を得ることが大切で、産業衛生技術者が果たす役割は大きいと考えています。

## 会員の声



### 労働衛生コンサルタント試験 合格までの私の道のり

京阪電鉄(株)・枚方診療所  
泊 慶明

平成24年4月1日より、京阪電鉄の常勤産業医として着任いたしました泊と申します。以前は、勤務医として患者を診察する毎日でした。そんな産業衛生の実務経験が乏しい私であっても、労働衛生コンサルタント試験に今年無事合格できましたので、その体験を書いてみたいと思います。

労働衛生コンサルタントは安衛法に定められた国家資格であると同時に、産業医の資格としても通用します。認定産業医制度とは異なり、5年毎の単位更新の必要性がありませんから、めざす動機としてはいささか不純？かもしれませんが、そういう目的で資格取得をお考えになる先生方も相当数おられるのではないかと思います。

これからこの資格をめざしてみようかとお考えの先生方に、最初におすすめしたいのが、毎年10月初旬に行われる日本医師会主催の産業医講習会の受講です。これを受講すれば、筆記試験が免除になります。私は

平成23年10月に受講しましたが、受験対策の話も多くありました。受験勉強の必須テキストは、「労働衛生のしおり」の最新年度版です。私はこれを中心に、産業医学振興財団が発行する「産業医の職務Q&A」を併用しながら、11月頃より本気で取り組み始めました。口頭試問の想定問題集を作り、それをipadのFlashCardQ3というアプリ(単語帳のようなもの)に入れて、暗記作業をひたすら繰り返すという勉強法でした。試験直前対策としては、12月に労働安全衛生コンサルタント会が行う口述試験受験準備講習会への参加も非常に有用でした。テキストなどで独学するだけではわからないことを知りえる機会となりますので参加はおすすめです。

講習会で合格に必要な情報を収集して、暗記すべきところは徹底的に暗記するというスタンスで臨んだことが、実務経験の乏しい私であっても合格できた要因ではないかと思っています。受験動機は必ず質問されるわけですが、その際、「産業医の資格のため」と正直に答えたら、それだけでアウトだよと教えてもらいました。合格のためには正直すぎてもいけないのかもしれませんが(笑)。これから京阪電鉄で多くの経験を積みさせていただきながら、いつの日かコンサルタント事務所を持てる自分でありたいと思う今日この頃です。



### 人との出会いに感謝 ～入社時から振り返って～

キャノンマーケティングジャパン(株)  
安全衛生課 中村 千賀

働き始めてから12.5年経ちますが、つい最近まで「若手・新人」と思いこんで仕事をしていました。ある日、産業医の先生から「いやいや、君はもう中堅だよ。」と指摘され、ようやく気付いた今でも同期社員と接すると入社時の気持ちが蘇ります。

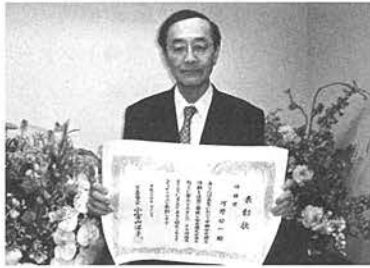
保健師新人で入社し、研修として「工場実習」「営業実習」を経験しました。短期間でしたが工場働く人の気持ち、営業職の人たちが考えていることを身近に感じることができました。また、それ以上に一緒に実習に取り組んだ同期社員の考え方・行動がとても刺激的でした。光の三原色についていきいき語り、これから開発に携わる喜びに満ちあふれる彼らは自分たちのことだけでなく「保健師」として働くことになる私に対して「保健師は社員を元気にして会社の力を強くする縁の下の力持ちだね。会社にとってすごく必要な仕事だと思う。」と言ってくれました。私自身、どう

いう形で会社に貢献できるのかよく分かっていなかった時でしたのでこの言葉はとても心に響き、今も心の支えになっています。また、同期社員の語学力の高さにも驚きました。英語だけでなく中国語も話せる…そんなすごい人が普通にいました。正直な所、私の英語力は大学入試で終了していたため文法は分かっているもいざとなるとコミュニケーションが取れない低いものでした。少しでも彼らに追いつきたい一心で英会話を習い始め、いつしかそれが大好きな趣味の一つとなっていました。「英語力」はあまり伸びていないかもしれませんが、様々な文化をもった人たちと話すことが楽しくて仕方ありません。英語で会話する時だけいつもは大人しい(?)私もなぜか積極的になれる。英語の力でしょうか。現在は育児のため少し休憩中ですが、落ち着いたら再開してみようと思っています。

同期社員との出会いから始まり、その後のキャノンライフで信頼のおける上司や同僚、「器が大きい」とはこの人のことだと思える方等と出会って本当によかったと思います。自分自身「器の大きい」人には到底なれそうにもありませんが、誰かにとって少しでも「いい刺激」「いい影響」を与えられるような、そんな保健師を目指してこれからも頑張っていきたいと思えます。

## 厚生労働大臣功績賞を受賞して

大阪医科大学  
衛生学公衆衛生学教室 I・II  
河野 公一



この度、これまでの厚生労働行政および労働安全衛生活動への貢献に対して厚生労働大臣功績賞を受賞しました。昨年の緑

十字賞に続いての受賞であり感慨もひとしおです。

これらの受賞は本学会の諸先生をはじめ関係各位の後ろ盾があったればこそと大変恐縮し、また感謝しています。

大学卒業後今日まで産業医学・予防医学を座標軸の中心に置いて歩んできましたが、私が主に取り組んでいる化学物質による中毒事例もいまだ多数発生しており、取り扱う作業員の労働災害は休業4日以上の方で毎年200人を超えています。また法令規制の対象となっていない化学物質による労働災害も全体の約4分の1を占めています。今後労働者の中・高齢化に伴って生じる傷害の重症度も高くなることが予想され、これら化学物質による健康影響の解明はますます重要な課題になっています。

これまで福井労働局や大阪労働局の労働衛生指導医や労災医員として勉強させていただいた経験を後輩の諸兄に少しでもお伝えし、お役に立てばと思っています。

今後とも会員諸先生のご健康を祈念しますとともに、ご指導・ご助力をよろしくお願い申し上げます。

## 大阪労働局長「功績賞」を受賞して

大阪産業保健推進センター  
松井 治子



本年7月、労働安全衛生の標記の賞を頂戴しました。省みると、1961年4月から23年間は薬品工場の安全衛生課に勤務。この間、診療所に医師、看護婦常勤体制の中、保健師は、「健康診断」と「薬品による接触皮

膚炎の予防」に忙殺されました。

1966年から約19年間は、「精神科医と臨床心理士」を招き、課長クラスの方への協力を呼びかけ、産業医と共に心を病んだ従業員の対応に忙殺されましたが、その工場は、生産計画の都合上、関東に移転しました。

1984年から14年間は自動車製造業に勤務。診療所に産業医と看護師が常駐、健康診断と診療を実施、精神科医は週1回勤務。保健師は「生活習慣病の保健指導」を担当。1989年からは、精神科医の要望により、臨床心理士を迎え、臨床心理士による中間管理者のメンタルヘルス研修が開始され、この時、保健師は臨床心理士のサポーターを担当、この体制は、現在も、後輩たちに引き継がれています。

今回の受賞では、1999年から大阪産業保健推進センターで担当している相談や講義に、今までの経験を生かして、来談者の方々へ参考になるように、伝えなければならぬと改めて認識する機会が与えられたと感じております。

## 第二回幹事会議事録

日時：2012年8月30日(木) 18:00～19:30  
場所：大阪市立大学医学部学舎18階会議室  
出席：車谷・清田・圓藤・伊木・伊藤・植本(監事)  
大脇・岡田・河合・木村・鮫島・鈴木・竹村  
埴田・夏目・中西・西尾・廣田(監事)・廣部  
森岡・山田  
欠席：久保・小泉・土手・藤岡・宮上・宮下  
(敬称略・順不同)

### 議事

#### 1. 選挙管理委員会からの報告

西尾選挙管理委員長から、配布スケジュールどおりに進めている旨の報告があった。会長・監事の立候補と推薦に関しては8月22日に地方会ホームページ上に再告示した。

候補者・有権者名簿の閲覧希望者は選挙管理委員会に問い合わせようホームページ上で周知、メール等で直接回答することになった。有権者名簿は改頁個所に配慮し、同姓同名の会員を区別する方法は選挙管理委員会に判断を任せる。会長・監事の候補者が定数通りであった場合は、本年の本部理事長選にならって会長・監事の選挙を省略することも可能との意見もあり、最終判断は選挙管理委員会に一任することになった。なお、再告示や候補者が定数通りの可能性など、前例のない事態について検討したが、これらを今後のために内規として記録することになった。

## 2. 第52回近畿産業衛生学会（和歌山）の進捗状況

森岡学会長から配付資料に基づいて順調に準備が進んでいるとの説明があった。

代議員会と昼食セミナーの時間帯は重複しないように設定する。全プログラム終了後に閉会式を行い、その場で近畿産業衛生学会優秀演題賞の表彰と次期会長挨拶の時間を設けたいとの提案があった。優秀演題賞の副賞の是非について論議があり、図書券を副賞として贈呈することになった。なお、第52回近畿産業衛生学会若手奨励賞にも副賞として図書券が贈呈される。抄録集のホームページへの掲載についての了解を、地方会ニュースでの学会案内などを通じてさらに徹底していくことになった。遠方からの演者が多いため旅費等の予算が嵩むが、広告費等で捻出予定とのこと。

## 3. 第54回近畿産業衛生学会（大阪開催）について

圓藤理事から、近畿大学医学部公衆衛生学講座教授の伊木雅之幹事を学会長とすることの推薦があり、承認された。

## 4. ホームページのリニューアルについて

中西広報担当幹事から、利便性が上がり、今後は閲覧状況の分析、操作マニュアルの作成を予定しているとの報告があった。

## 5. その他

### (1) 近畿産業看護部会の幹事交替について

大脇担当理事から、本部幹事に上坂聖美氏に代わって久井志保氏を推薦すること（本部看護部会には地方会長が推薦する形式になる）、近畿産業看護部会の新旧幹事について報告があった。

### (2) 「産業看護職実態調査」報告

大脇担当理事から、データと報告書を車谷会長に提出したとの報告があった。調査結果については、第52回近畿産業衛生学会・来年の日本産業衛生学会での発表、ホームページへの掲載を予定している。

### (3) 産業医部会研修会について

山田幹事から、9月8日（土）14:00～17:00、大阪市大にてメンタルヘルス対策の新たな試みというテーマで基調講演とシンポジウムを開催する。

### (4) 作業関連性筋骨格系障害研究会について

10月6日（土）10:00～15:30、介護老人保健施設「よどの里」で開催する。

## 6. 次回幹事会予定

次回幹事会は、11月17日（土）の昼に開催する。

## 会員の異動（敬称略）

### <新入会員>

入谷 智子	トッパングループ健保大阪診療所
岡原 聡	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター
喜多村 祐里	大阪大学大学院医学系研究科 社会環境医学講座
佐山 淳代	パナソニック健保 健康管理センター
田中 由美子	パナソニック健保 健康管理センター
祖父江 友孝	大阪大学大学院 医学研究科 環境医学
高木 絵里子	神戸大学医学部附属病院
永尾 理恵	パナソニック健保 健康管理センター
岡部 史佳	一般財団法人 京都工場保健会
澤 真樹子	(株)村田製作所
尾崎 裕美	和歌山県精神保健福祉センター
桂田 ちづる	(財)近畿健康管理センター 彦根事務所
藤田 愛子	大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学教室
木下 美緒	パナソニック健保産業衛生科学センター
川嶋 由貴	(財)近畿健康管理センター

### <再入会員>

市川 佳子 T I S (株)

## 編集後記

近畿地方会のホームページをリニューアルしております。是非ご覧下さい。トップページの写真を公募しましたが、PR不足の為、残念ながらご応募がありません。紙媒体でしかニュースをご覧になっておられない方もご応募下さいませ。詳細は中西か地方会事務局まで。 中西一郎

### 編集委員（五十音順）

大脇多美代（編集責任）  
河合 俊夫 木村 隆 鈴木 純子  
竹村 芳 中西 一郎（広報事務局）  
藤岡 滋典 宮下 和久

大豆  
スナック



**ソイカラ**

大塚製薬株式会社大阪支店  
〒530-0005 大阪市北区中之島6-2-40  
TEL: 06-6441-6532

大豆  
スナック

**ソイカラ**

ソイカラ製品特徴【SoyCarat】

- ソイカラは、まるごと大豆（うす皮を除く）をたっぷり使用。
- 振るとカラカラ楽しい音がします。
- 大豆約50粒分のタンパク質、大豆イソフラボン、食物繊維が摂れます。
- 油で揚げていないので、1袋123キロカロリー。
- スナック感覚のまったく新しい大豆です。